

カリフォルニアの風（2月号）

節分が過ぎ、暦のうえでは春となりました。ほらそこに、春の気配を感じているではありませんか。天気の良い日、野外で、お家の人と「春さがし」に出かけるのはいかがでしょうか。

日本には、節分の日の夕ぐれ、ひいらぎの枝にいわしの頭をさしたものを戸口に立て、炒った大豆をまく習慣があります。災いを除くことを祈願した日本の文化ですね。

私は、節分の日を迎えると、近所の観音様に参詣しておりました。本殿前に立ち、手を合わせ「家族みんなが健康でいられますように。」と祈願していたことを思い出します。今年は、恵方の方角を向いて、「観音様、今年一年、補習校に通う子どもたちみんなが、健康でお友だちと仲良く過ごすことができますように。」と手を合わせました。あなたは、その日、どのように過ごしましたか。補習校で作った鬼のお面をお家の人の顔にかぶせて、「福は内、鬼は外」と豆袋をまいて、お家の人が、家中逃げ回ってくれるのを楽しんでいたのかも知れませんね。

さて、節分の翌日、幼小部サンフランシスコ校では「幼稚部生活発表会」がありました、

「うた」や「おゆうぎ」の発表のとき、子どもたちが笑顔で楽しそうにしている姿に、お家の人たちの心はひきつけられ、目が釘づけになっていました。

幼児一人ひとり、マイクの前でお辞儀をし、「大きくなったら、〇〇になりたいです！」と発表する姿を見つめていると、「観音様、一人ひとりが夢に向かって頑張っています。その夢が叶いますように。」と祈る気持ちにもなりました。

また、今、4校では文芸作品コンクールの表彰が始まっていますね。

賞を目指すことはもちろんよいことなのですが、心で感じたこと、心動かされたことを、作品としてまとめあげることが、より大事だと思います。それがむずかしい、と思っているお友だちがいて、あなたもその中のひとりではありませんか。私もそうでした。

その私の経験から思うことは、まとめあげるには、日ごろから短い文でよいので「書く癖（くせ）」をつけるとよいということです。今日あったことを書く。書き方がわからないときは、国語の教科書を見てまねる。まねながら、「書く癖（くせ）」がついてくると、見たもの、聞いたこと、感じたこと、心動かされたことをまとめあげる力がついてきます。そして、心の動きをまとめあげるということは、日本語の力を育て、自分を見つめることにつながっていきます。

あと一月もすると、進級、卒業という春を迎えます。その節目をきっかけに「書く」ことに力を入れることは、今後の成長につながります。そのためには、好奇心を満たすような直接体験、本を読んだ間の体験を多く積み、心動かされる機会をたくさんしてほしいと願っています。

補習校に通うみなさんには、集中力があり、やる気があり、苦しい時にもあきらめない心、失敗しても立ち上がる力を備えています。書く癖も「できる」と思って、取り組んでみてください。

改めまして、観音様へ、

「子どもたちみんなが、日本語の力を育て、自分を見つめて成長する一年になりますように！」